

## 令和2年度第2回湖南省男女共同参画懇話会(会議録要約)

- 日時 令和3年(2021年)3月10日(水) 午後2時～3時30分
- 場所 石部まちづくりセンター 中会議室1
- 出席 委員 8名  
事務局 3名

### 1. 開会

司会:

- ・欠席者の報告
- ・配布資料の確認

### 2. 協議事項

会長:

協議事項の湖南省における男女共同参画の現状について事務局から説明を。

事務局:

《資料1～資料2に基づき説明》

会長:

事務局から調査に基づく市の現状について説明があった。質問、意見があれば。

会長:

今日はテレビでコロナの関係の貸付制度をやっていた。

湖南省においては、社協での対応になるかなと思うが、それが全部に行き届いてないような状態がテレビで紹介されていた。

今は日本中で、母子家庭や父子家庭の方、あとパートの方がコロナの関係で、かなり生活が苦しいと言っていた。そういった状況を湖南省民の方にも知ってもらいたい。

湖南省の社協では、約2,600件の融資のうち外国籍の方は1,000件を超えるという話も聞いている。

生活で困っている人については、融資という形で対応したらどうかと思う。

また、これもテレビの情報であるが、日本はジェンダーギャップ指数や女性の管理職比率が世界と比較してかなり低いと聞いた。

副会長:

企業への調査6ページのところで有給休暇取得促進については、ほとんどの企業で取り組んでいるが、1社未実施の会社があった。

市役所で把握しているのか。

**事務局:**

無記名の調査のため把握していない。

**副会長:**

仕事と育児の両立支援について、その他と未実施という回答があるが、より詳しく事情を調べてほしい。少しでも改善できるような方法で、何かアクションを起こしていただければと思った。

また、市民の意識調査においても、ワークライフバランスなんて知らないという回答もあり驚いた。

**委員:**

単純な質問だが、資料 1 の問 1 の最後に在籍した学校は次のうちどれですかという調査で、小学校という方が 1 人いるが、年齢層や国籍等確認されているのか。中学校でも 11 人おられる。その辺が、アンケートを見てすごく気になった。

**事務局:**

この調査については外国籍の方にもお送りしている。

ただ、外国籍かどうかは項目には入っていないため、この小学校卒業の方が外国籍であったかどうかはわからない。

年代については、今の段階ではクロス集計がなくわからないが、今後質問いただいた点に気をつけながら調査結果を見ていきたい。

**委員:**

今までは、職場にこういう調査が市から来ても、何もやってないから未実施とか、回答できないのが実態だった。そういう状況の会社も未だにあるのではないかと。

今では調査が来ても堂々と答えられる状況なので、積極的に回答しようとしている。

湖南省は、いろんな規模の会社があると思うが、おそらくちゃんとやっているところは回答できるが、そうでない会社も多数あるのではないかと。

**事務局:**

そういう企業もあるだろうと考えている。100%集めると数値がもっと悪くなる可能性もあり、なかなか調査で実態を把握していくのは難しいということを感じた。

**委員:**

2,000 人に配布して、回答数が 670 というのは、すごく少ないなと思ったが、そんなものなのか。調査の中身にもよると思うが。

**事務局:**

回答率は関心によって増減すると考える。

**委員：**

調査に回答いただいている方は、あまり問題がない方なのかなと思う。

調査に回答いただいてないの方が、問題を抱えていたり、悩んでいるのではないかな。

資料を分析していくことで、また見えてくるところがあると思うが。

**事務局：**

数字は数字として出てくるが、それをどのように見ていくのかで、施策の方向性は全く変わってくる。

本日いただいたご意見と、前回の会議で副会長がおっしゃったように、量的な調査と質的な調査がある。

質的なところでは、当事者からのヒアリング等生の声を聞かせて頂く機会を持ちながら今後の方向性を考えていきたい。

**委員：**

日々ひきこもりの相談を受けているので、そのことについて、感じるところをコメントさせていただく。

ひきこもりの調査はあっても女性に特化した調査は目にしたことがなかったので、先駆的なことだと思う。何かその傾向を見つけられたら。

中でも、女性のひきこもりについてどのように思いますかの質問に、問題だと考えたことがなかった方と家族の問題なので対策は困難と回答した方を足すと5割ぐらい。3割の方は行政的な支援がいると考えているようだが、ひきこもりはまだまだ他人事で女性のひきこもりというのが社会的認知として低く、認知の底上げが必要だと感じた。

また、ひきこもった経験のある方に原因は何かという質問には、身体の問題が 26%、心の問題 40%となっており、病気によるものという認知があるのかなと感じる。

ただ一方で、人間関係が3割近くあるということで、表面的には身体に出てくるのだと。その根っこにあるのは、人とのコミュニケーションが困難でしんどかったんということは、調査結果の読み取りとして、できるかなと考えている。

ただ、問 10-4 の質問で、なるほどと思ったのがひきこもったことがとても辛い、辛い、40%ほどいる反面、気は楽になったと回答する方も 21%ある。ひきこもりは悪いことだと考える方も多くいるが、案外、学校や職場でつらい体験があって、家が本人にとって居心地が良く、少しその羽を休めてエネルギーをチャージするような時間とひきこもりを肯定的にとらえることもできるんだなと感じた。その場合、ひきこもりが長期化するといった課題は別途あるが。

他にも少し驚いたのが、問 13 で自分のことを嫌いだと感じることが常にあるまたは時々あると回答している方が6割を超えている。そこが女性の生きづらさに関係してくるのか。この数字は高いように感じたが、他市町や県、国の実施する他の調査でも同じような数字が出てくるのか比較できるデータがあれば教えていただきたい。

問 14 以降ではどんなことについて不安ですかといった質問で、とても不安いつも不安と回答される方は経済的なことへの不安が2割と他と比較して少し高くなっている。やはり女性が経済的に自立していくということは大きなポイントかなと今回の調査から感じた。

**会長：**

今の意見について県か全国のデータをわかる範囲でまた、今後の会議等で報告をお願いしたい。

**委員：**

自分のことを嫌いだと感じる時があるかという質問で、常に感じると時々感じる、この時々ってつくど、すごく広がってしまうのではないか。小学校でも自尊感情の調査をすると湖南省でも甲賀市でもどこの学校でもかなり低い。日本人的な考え方もかもしれないが、時々感じるといった項目は除いた質問だと数字は下がった気がする。

もう1点、懇話会は女性委員が多いので、正直なところを聞きたい。

職場で職員の希望を聞くと、子育てや女性であることを理由に負担の多い役割を差し控えたいと言われることが多い。女性の管理職比率は法律的には上げないといけませんが、女性自身がそれを希望されているのかということをお聞かせ願えたらありがたい。

**事務局：**

個人的な話で言うと、どこに行っても残業がないのが理想。またそれは男性だから女性だからというところではないかとは思っているが、女性の中でも、子育て中でできないと言うと、単身の人に負担がいつてしまったり不公平感がたまってしまったりする部分はあるかなと思う。おそらく、どこの市役所や企業でもそうだと思う。そのあたりを委員の皆様にお聞かせいただきたい。

**副会長：**

男女共同参画は男性にとっても大事なことである。子育てや介護に参画したい、或いはしなきゃいけない時にどれだけ時間を割けるかは男女関係ない。

子育てがあるから管理職になれないとおっしゃる方がいるとは思いますが、その背景には何があるかということを考えて、女性が管理職になるルートを作っていただきたい。

**委員：**

幸せの基準は人それぞれ違うので、一体何を幸せと思って、アンケートの返事等出しているのかなというのが1つ。

また企業への調査は答える方によって内容が変わってくると思うので、調査結果が必ずしも正しいとは思わない。

それと自治会では、女性自身がそんな仕事をしたくないとか、役職を決める際に男性が行ったら上の役職がつくから女性が出席しようとなって、どの家庭も奥さんが出席して、大変な仕事が手の空いている方に回ってくるという感じがある。女性自身にそういった意識があって、何か大変な仕事を逃れるために女性を使おうという意識をすごく感じるので、そこが変わっていかないことには地域としての男女共同参画は難しいと感じている。

ひきこもりに関しては、実態をしっかり把握してサポートする人が増えると、減っていくと感じた。

#### 事務局:

前回の懇話会でも職場だけではなく地域や家庭でももっと取り組んでいかないといけないとお話いただいていたが、まさにそのとおりだと思う。市から人権まちづくり懇談会でお願いして様々な人権のテーマを選択いただくが、男女共同参画になると、家庭の中までは踏み込めないと敬遠されることもある。市としては、家庭の中のことで社会のことだということを市民の皆様にもっと啓発していきたい。

ひきこもりについては、支援団体にヒアリングをさせていただいた。どこに相談したら良いかというところをちゃんとつないでいけるような体制づくりができればと思う。

#### 委員:

確かに私も答えを選ぶ項目が、ややこしいと感じた。1か0かの回答の方が回答しやすいというものもあって、どのように回答したら良いかと思った。

また、男女共同参画の部分では本当に日本社会は、家庭環境や親の育て方、文化風習等で男尊女卑がまだまだ抜けていない。いくら男女共同参画と言っても、女性側にも地域の役割は男の人にしてもらった方がと思うところもある。

自分の家庭では、主人は家事や子育てを結構手伝ってくれたが、それは女性だけの仕事じゃなくて2人の仕事、2人の子どもだということはずっと言ってきたからかと思う。学校の行事や呼び出された時には主人が行ってくれることもあったが、他の方が変わっていると言われたことがあり、日本の社会というのは全然ジェンダーレスが進んでないのが現状だとずっと感じている。

ジェンダーレス社会にしないといけないと言っていること自体がそもそもダメ。日本のようなジェンダーレスが進んでいない国ほど男女平等にしようと思っている。スウェーデンのようなジェンダーレスが進んでいる国の方が男女平等じゃないと思っている率が高いと聞いた。そういうところを正していくには、祖父母世代の方が自分の息子や娘が子育てをする際に、男女共同参画の視点で子育てしないといけないと教育が必要と感じている。

#### 会長:

私もそういう形では年代が上の方。いわゆる上の年代の人は、今言われたようなことで、これは女の人の仕事だとか、これは男の仕事だとかあろうかと思うが、近年は変わってきている。

自分も反省しないといけないことがたくさんある。

もう1つ話をさせていただくと、ひきこもりの子を持つ親から話を聞くと、普通になって欲しいとお子さんに言われることがある。それを言われるのがひきこもりをしている方には1番つらい。普通という言葉が1番きついと言っていた。それは大切な言葉だと思う。

#### 副会長:

お尋ねしたいことがあるのだが、ひきこもりをして気が楽になるという方が11人いらっしゃって私もびっくりした。このデータでは今現在ひきこもっていらっしゃる方が8人なので、単純計算で少なくとも3人の方は、ひきこもりから出てこられたってということになる。ひきこもりから、社会に出るきっかけは何だったのかというところは分析されているのか。

**委員：**

ひきこもりの方をサポートする場所にやって来る方は多分たくさんひきこもっておられる方のうちの一部だと思っている。

相談される方というのはご本人からというより親御さんからどうしたら良いかわからないという形。買い物したり家のことはされるので一昔前であれば家事手伝いで何の問題にもならなかったような事例もあるが、このままではいけないと思って SOS を出してくださっている。

中には、ひきこもっていたことが楽になったみたいなどえ方ができる人は、推測だが一定の知的レベルもあって、自分がひきこもらなければならぬ事象についても、ある程度自分なりに解釈できて、今は、ちょっとエネルギーを蓄えるために休憩している。それでまたエネルギーが溜まってきたら、自分のやりたいことや、ちょっとずつでも歩きだそうという方なのかと思ったりする。それが逃げるようにひきこもりになるしかなかったとなると、なかなか楽になるという表現にはならないと感じる。

私の感覚だと発達の特性のある方が多いかなと思う。そうすると医学的には、男性の方が多し、まわりも女性なら家事をしてくれたら家にもそれで良いとなってしまうのが女性の相談件数が少なくなることにも関係しているかもしれない。だからといって働こうということではなく、女性もひきこもりの相談を受けていますよ、相談員は女性ですよといったような女性も相談を受けやすいようなキャッチーな相談アナウンスが必要かもしれない。

**委員：**

ひきこもりの話でふと思ったが、小中学校のお子さんが不登校になって、そういう方が大人になってもひきこもりになるのか、大人になってから職場環境などが原因で急にひきこもりになってしまうのか。成長過程と何か関係があるのか。

**委員：**

相談のあった一部の事例からの考えだが、男女に関わらず、学生時代の成績は良く今まで問題になったことがない方が社会に出て初めて挫折してという方もいるし、逆にいじめなどが原因で不登校になり人と関わる経験がないままに 20 代、30 代になりひきこもりになった方もいる。

**委員：**

調査に表れているのは女性か。

**事務局：**

はい。

**会長：**

ひきこもりの相談は市では健康政策課がしているし、水口の奏-かなで-と滋賀県の縁(えにし)という場所でも実施している。身近なところでひきこもりの事例があれば相談窓口につないでいただけたら。

時間の関係もあるので次に進める。資料3について、事務局から説明を。

**事務局：**

《資料3に基づき説明》

**会長：**

事務局から国の計画について説明があった。SDGsや新型コロナウイルス感染症など、国の計画では新しいキーワードが出てきている。これを踏まえて、湖南省で今後必要と考えられる取り組みなどについて、皆さんからご意見をお聞きしたい。

**副会長：**

第3分野の地域は、先ほどの話もあったが、若い女性の大都市圏への流出が増えている。

特に湖南省の場合は、製造部、製造業が多いので、なかなか女性の働き場所が湖南省内には、見つからないという問題があるのだと思う。

だからこそ大都市でなくても仕事ができる環境、女性が起業することへの支援というのはこれから湖南省にとって大事なのかと思う。

**委員：**

私の職場は製造業なので、男性ありきの部分はある。女性は事務職を好まれるというお話もあったが、うちは事務職がほとんどないので、女性が面接に来られた時は、機械の操作や重い物を持つことができるかといったことも考える。

**副会長：**

女性ではできないものなのか。

**委員：**

できると思う。

ただ自分ではできてもそれが他人になるとけがさせてはいけないとか、妊婦の場合は重量物を持つ時の法規制もあるので難しい。

**副会長：**

できるとおっしゃったが、それをどうやって広げていくかが製造業の今後の課題かと思うがいかがか。

**委員：**

できると思う。

だから問い合わせがあれば、1度見学に来ていただくが、家族に相談した結果反対されて採用に至らずということもある。

**委員：**

私も製造業の事務で、男性ばかりの現場だったが、ここ数年、女性がだんだん入ってきている。

軽い荷物を運ぶ部署に女性を配属したり、重くて持てないものでもフォークリフトの免許を取ってもらって、フォークリフトで運ぶような方法を取っている。

今の若い男性も少しずつ意識が変わってきていて、できないことをできるように、パワースーツを着せたり、下から上に持ち上げるのが無理なら、下に積まないように、中段ぐらいから横滑りさせるような工程の見直しなど、いろんなやり方があると思うので、早く社会全体にそういうことが浸透して行って欲しい。

#### 会長：

過去には女、男しかできない仕事という形で割り切りはあったと思うが、大分変わってきて、ある程度できる仕事を男も女も関係なく、一緒にしていこうっていうことで、前に進んでいるかなと思う。会社では、上司や経営者が男女を同等にという形にさせていただくと一番良い。何か市の方からはあるか。

#### 事務局：

本人もやる気があって、能力もないわけではないのに、自分がやりたいことを制限されるっていうのは、本当に男女共同参画に繋がっていかない。本人にとっても社会にとっても残念なこと。

おっしゃっていただいたようにいろいろなやり方がある。それを考えていく機会や良い方法を社会で共有できるようにしていきたい。

#### 会長：

第5分野の女性に対するあらゆる暴力の根絶は、今までずっと出てはいたが、去年、一昨年からコロナ禍で、家に旦那さんがいるから、DVが増加しているとテレビでも放送していた。ご家庭によって事情はいろいろあると思うが、そういうこと自体をなくしていくというのが、当たり前のこと。湖南省では、DVに関してどんな状態か市の方から、わかる範囲でお聞かせ願いたい。

#### 事務局：

DVに関しては湖南省では、人権擁護課でも相談を受け付けているが、その方が日頃繋がりがやすい課でも相談していただける。子育て世代の方なら子ども政策課、障がいをお持ちの方でしたら社会福祉課、高齢の方なら高齢福祉課など。

ただ、人権擁護課で実施している相談では、このコロナ禍でのDVの相談はなかったが、県の相談機関での相談件数は増加している。湖南省で相談がないというのが問題なのかと感じている。

もっと相談しやすい環境づくりを市でも考えていきたい。

#### 委員：

第5分野の暴力のところで、性的虐待の部分だが、私たちが普段関わってご相談を受けたりする方でも、そんなに多くはない。ニュースに出てくるのは、学校の先生が学校の中でという痛ましい話かなど。

大人や高齢者の虐待と違い、性的虐待は件数としてなかなか出てこない。

子供たちに自分の体を守ることや、相手を大事にすること、性暴力やティーンエイジャーの性交渉の避妊教育なども合わせて、今の学校ではどんな取り組みをされているのか少し教えていただきたい。

**委員：**

まず教師の性暴力、わいせつがすごく取り上げられている。目立ってしまうのか。分母がとにかく大きい。率で言うと一般の大人と変わらないのかそれとも高いのか比較するデータがないので答えようがない。教育に携わる者がそういったことをするのはあってはいけないと思う。

子供たち自身がどうやって自分を守っていくかということは、性教育などで指導している。ただ、性交渉に関しては、今のところ、あまり小学校では触れてはいない。中学校がメイン。

あと今年はコロナの影響で性教育の授業時間が少なくなったかもしれない。

学校で性的虐待と子どもから訴えがあれば、教育相談を担当している養護教諭が話を聞いている。

**会長：**

事務局は、本日の意見を十分に参考にし、計画改訂を進めていただきたい。

**3. その他**

**事務局：**

今後の会議については、本日いただいた意見を踏まえ、改訂の方向を整理してお示しさせていただきたい。

次回の会議はできれば5月末頃を予定。

**4. 閉会**

副会長：閉会あいさつ